



暮らしに、真珠を

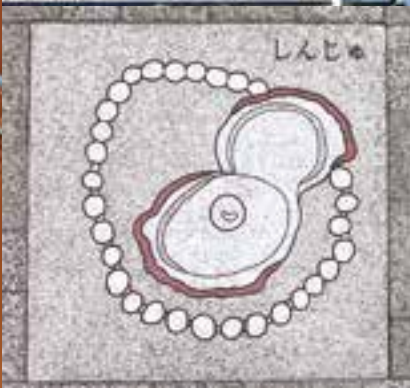




真珠のまち、宇和島

6月は真珠月です。冠婚葬祭や高級品といったイメージの強い真珠ですが、カジュアルなアイテムの充実やメンズパールの流行など、近年その多様性が注目されています。宇和島が生産量日本一を誇る真珠。この機会に、その魅力を見つめ直してみませんか。

宇和島真珠応援企画「# With Pearl」では、稚貝の大量へい死やコロナ禍で大きな影響を受けている真珠関係者を応援するため、世代を問わず暮らしに寄り添う真珠の魅力を発信します。



にじいろの輝きを
たくさんの人に届けたい

パールショップにじいろ



にじいろに輝く真珠と宇和島

3代目として真珠養殖を営む増田雄亮さん。もともとは継ぐ気はなく市外に出ていましたが、帰省して真珠養殖にのびしろを感じ、家業を継ぐことになりました。同世代の後継者も多く、切磋琢磨しながらより良い真珠づくりを目指しています。その後、市外で働いていた姉の恵子さんも帰省し、真珠のアクセサリ製作と販売を行う「パールショップにじいろ」をスタートしました。当初は真珠の選別を雄亮さん、アクセサリ製作を恵子さんが行っていました。イベント出店などで刺激を受けたり、もともと手先が器用だったこともあり雄亮さんが製作も行うようになりました。恵子さんは広報などのサポートを行っています。雄亮さんは「SNSやWith Pearlがきっかけで、市内外のギャラリーやアトリエ、美容室、セレクトショップなど多くのつながりができました。その中で、改めて真珠や宇和島の魅力にも気付かされた。これまで見えなかった部分の価値を含めて、真珠と宇和島の魅力をたくさんの人に届けたい」と力強く話してくれました。



宇和島に遊びに来てもらえるような仕掛けも考えたいと話します。



ギャラリーでの展示の様子。美しい輝きが好評でした。



左／慣れた手つきで貝を並べます。中／母貝に核を挿入する「珠入れ」作業。家族総出で行います。右／作品1つひとつに想いを込めます。

真珠への想いを 未来につなぐ

三位一体で乗り越える

40年以上母貝養殖を営む伊藤 茂樹さんも、大量へい死で大きな影響を受けた1人です。明確な原因は未だわかっていませんが、環境の変化ははつきりと感じているそうです。さらに高齢化や後継者不足もあり危機感を募らせます。そんな中でも伊藤さんは「養殖でも販売でも、切磋琢磨しながら新しい取り組みをしている人たちはいる。これからは、母貝生産、真珠養殖、販売が三位一体となって課題解決に取り組んでいかなければならない」と真珠産業の未来を見据えます。



大きく変化する環境の中、入念に貝の状態を確認します。



それぞれの With Pearl それぞれの宇和島

本市は真珠の生産量日本一。このことを知っている人は多いと思いますが、真珠を育てるための母貝の養殖と真珠を作る真珠養殖が分業制だということはあまり知られていないのではないのでしょうか。また真珠は、貝に守られて育まれることからお守りとしての意味を持つことや、結婚30年を真珠婚といひ6月を真珠月と呼ぶことはどうでしょう。このようにさまざまな背景や意味を持つ真珠は、見る角度により違った輝きを見せる宝石であり、生産者の想いや宝石としての意味を知ることですらに特別なものとなります。

これは、まちそのものにも当てはまるのではないのでしょうか。当たり前にあるものでも見方を変えると新しい輝きがあり、さらにその裏にあるストーリーを知れば、そこにしかない価値が見付かることでしょうか。この機会に真珠の魅力に触れることで自分なりのWith Pearlを楽しんで、その先にあるそれぞれの宇和島の魅力を再発掘してみたいかがでしょうか。